4月号

いっしん

第315号　平成23年(2011年)

家老とぞ
教へ給ひし
妻の身の
かくれし力
神は愛づらむ

安武松太郎師 御歌

発行：金光教加治木教会　〒899-5213 鹿児島県姶良市加治木町朝日町130　発行責任者:矢野文枝　TEL 0995−62−2895
Mアドレス　konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp　　ホームページ　http://www7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki

加治木教会 布教六十年記念大祭　平成23年 5月 29日(日)

鹿児島地連 各教会に設置さた「支援金箱」でも支援活動がなされます。

典楽講習会開かれる

三月十二日(土)・十三日(日)鹿児島教会において、典楽講習会が開かれました。記念祭を目前にひかえた加治木教会からも初心者・経験者、数名が受講させていただきました。指導の御用に当たって下さったのは、遠く大分県や福岡県からおみえ下さった教師・信徒の指導員・経験者のみなさんでした。

写真で太鼓を叩いておられる日田教会の井上さんの弟さんは石巻教会長、震災の翌日でありながらも、御用に赴いて下さいました。

石巻教会は一階が津波に流され浸水。ご家族は二日後に離れた避難所から生存確認が取れ、命だけはギリギリで助かられ、今は二階で老お母様と子どもさん二人と先生ご夫婦が何とか寝起きしてあります。井上直文先生は若いので、被害に遭われた信者さん方や地域の人々のためにボランティア活動にお忙しいそうです。一日も早い復興をお祈り申し上げ、できるだけの支援に力を尽くさせていただきましょう。

加治木教会の「災害対策支援金箱」に一四〇九〇円入っていました。連合会「社会活動委員会」を通して支援させていただきます。今後も皆様のご協力をお願い申し上げます。

典楽講習会・震災支援 ……P1
記念祭奉迎感話・萬代孝子氏…P3〜4
濱口洋子氏…P5〜8
青年会・お知らせ…P10〜11
教会行事 ……P12

春季霊祭 仕えられる

加治木町周辺の野山にヤマザクラが開きだした春分の日に、教会では春季霊祭が仕えられました。

午前十時三十分から始まるご祭典では、先ず神前で奏上祭が仕えられ、「これから教徒・信徒の霊神のご功績を称え御礼申し上げお慰め申し上げるみ祭りを仕えさせていただきます」という内容の祭詞(旧祝詞…のりと)が奏上されます。

続いて霊前に転座の後、霊祭詞(霊様に対する祝詞)が奏上されます。最初にお道の御用に生涯を捧げられた加治木教会の霊舎にお祀りされてある霊様方すべての諡（おくりな）を読み上げお呼び出し申し上げ、続いて教徒の霊様方の諡（おくりな）さらに信徒の霊様方(お届けになられた霊様)すべてのお名前を読み上げお呼び出し申し上げ、さらにご功績を称え御礼申し上げお慰め申し上げる内容の祭詞が奏上されます。

この祭詞奏上には三十分ほどもかかりますが、数百柱の霊神名を読み上げお呼び出し申し上げて儀式をお仕え致します。

お道の御用に生涯を捧げられ加治木教会の霊舎にお祀りされてある霊様方は、親教会の初代親先生ご夫妻、二代親先生ご夫妻、戦前に加治教会を設立された平島只介先生ご夫妻、戦後加治木教会を再興された矢野政美先生方です。

教徒の霊様方は、戦後加治木教会を再興されてから今日まで、加治木教会にご縁のあるご先祖を金光教式でお祀りされ金光教で葬儀式を仕えられる家々の霊様方で、二百柱以上になります。

その中には、福岡・関西・関東方面に引っ越されてある方が何軒もあります。中には遠くから春秋だけは、霊祭を遥拝される旨のごあいさつをお便りにて届けられる方もあります。また、ご家族ご子孫の顔さえわからない霊様もあり、二十年三十年ぶりに里帰りをされて霊祭をお願いされる方もあります…。

祭詞が奏上された後、祭主はじめ参拝者全員が玉串を奉奠し、霊様のご功績を称え御礼お慰め申し上げる真心を捧げる儀式があります。

ご祭典終了後は、霊様のことについての教話が三十分ほどあり、霊祭のお下がりで直会を兼ねた茶話会となります。

霊様方も家族や子孫が、霊様方のご功績を称え御礼申し上げお慰め申し上げる姿をごらんになられ、お喜びになりご安心されるのではないでしょうか。ご霊前に供えられたクンシランが美しく咲き、春の訪れを歓んでいるかのようでした。

記念祭奉迎 感話発表

テーマ「原点・あゆみ・これから」

記念祭に向けて、信心の原点に立ち返り明るく元気な信心に、改め深め進めよう

萬代孝子

平成二十二年十二月十九日

◇母の信心◇

母は栗野で育ちました。旧姓は川畑で、祖父は輔太郎、祖母はツネです。母には兄が三人いました。

祖父母は戦前、栗野で旅館と運送業を営んでいたそうです。栗野にいるときから家族で栗野教会にご縁を頂いていたそうです。

加治木に移ってからは、戦前に加治木で布教してありました平島先生が御用されてあった教会に参拝していたそうです。

しかし、祖父がみ教えを聞き違えて、家族の皆に参らないように申し渡したため、お参りしないようになったそうです。

それから一・二年の間に、二人の兄(母の兄)と祖父が相次いで病気で亡くなってしまいました。

母は、女学校、師範学校を出て小学校の教員をしていましたが、母も続いて結核に罹り、指宿の療養所に入院して治療しておりましたが、死を目前にするところまで重くなっておりました。

そのような時、母の従弟が手紙で信心することを勧め、私が教会にお参りするので、あなたは神様に心を向けて下さいと、御神米を同封して送って来られたそうです。

そういうときに、栗野教会（加治木教会は終戦直後なくなっていた）から御大祭のご案内が届き、お参りから帰るまで命が持つかどうかわからなかったそうです。

母はベッドの上で必死に神様に縋り、祖母は具合の悪い母を置いて御大祭にお参りし、その日遅く帰り着くと母は見違えるように快復へと向かっていたそうです。

それから母の気持ちも神様に向くようになったそうです。

そうして病状もだんだんと良くなり、地元の加治木にある南九州病院に転院ました。

その頃に(Ｓ26)加治木町向江町に政美親先生ご夫婦がご布教になられ、お参りするようになりました。

母は、当時南九州病院に一緒に入院していた父と結婚し、退院して教会の近くに住み信心に励んだそうです。

そのような中に姉と私が生まれています。姉が生まれるときも、さらに年子の私が生まれるときも、母は体が弱く体重も三十八kgしかなかったのでお医者様が出産を止められました。

しかし、政美親先生は御結界から「神様は生まれない子ども授けはなさらない、神様にお礼とお願いを申し上げておくから、神様から産ませていただきなさい」とのお言葉でした。

母はそれで決心して姉を産み、その後、私を妊娠し、さらに再びお医

者様から出産を止められたのですが、政美親先生のお祈りお導きで、おかげを頂いて、本来無い命を助けられて二人とも生まれたわけです。

親先生は、姉には神様の御用にお使いいただけるようにと願って教子(のりこ)と名前をつけられ、私には親孝行するようにと孝子とつけられたそうです。そのため姉は、お道の御用におかげを蒙らせていただいております。

母は、自分の命もおかげを蒙らせていただいたので日参に励んでいましたが、体調の悪い日は思うようにお参りできないこともありました。姉と私に対しては、子どもの頃から、信心が伝わるように働きかけていました。

そのような中に、教会でお祈りお導きを頂いて、お育ていただいてきたことを有難く思わせていただいております。

その中でも、少年少女会お世話をされてありました宮内ミツルさんと、高校を卒業して勤めさせていただきました大井病院で事務をしてありました福元フサ子さん(加治木の在籍教会でもあった)には、特にお世話になりました。

宮内ミツルさんは、お導きもされましたが、いろんな人を少年少女会に連れてこられ、信心していない人で〈あれこんな人も連れて来られて〉と思うようなこともありました。

しかし、お参りすると「よくお参りしたね」と言って下さり、ご自身も朝参りをして信心に励んでおられました。

福元フサ子さんには母がなくなった後もお世話になりました。

母はピアノの御用など、健康状態に合う、できる御用をおかげ頂いておりました。

◇私の取り組み◇

私も結婚させていただきましてからは、三人の子ども(長男大学一年・次男高三・長女中三)を頂き元気に成長させていただいております。できるだけ少年少女会やバンドにおかげをいただき、全国大会にも極力参拝させていただいています。

都城で酪農を営む主人のお父さんが、八年前に食道癌を患われまして、十回ほど全身麻酔で手術をされましたが、食道が胃とつながらず、食事も頂けず、五年ほど入退院の繰り返しでした。

萬代家は古くからの仏教の家で金光教の信心はまったく受け容れられませんでした。

しかし、母が神様に心を向け、大病で無い命を救われたことを思い出して、義父母に手紙を書かせていただき、お参りを勧めました。

すると、母の霊の働きもあったのか、口から食べられない日が長く続いていて苦しいことも後押しして、近くの都城教会に夫婦でお参りされました。

そのすぐ後の手術で、食道が胃とやっとつながることができ、繰り返す辛い手術を終わることができました。都城教会へはそれから二度ほどお参りされました。

萬代家は代々一族仏教の家で、主人は長男で金光教には理解を示さず、なかなか厳しいところがありますが、私の信心生活を改めて行かねばなら

ないと思わせていただいております。
記念祭に向けて取り組ませていただくことついては、母の信心を無駄にしないように、家族参拝や、主人にも子どもにも信心を伝えて行くことに取り組んで行きたいと思います。
子どもには、教会行事を自分ながらに確認をして、学校の休みや合間を見て参拝させていただけるように声かけをして取り組ませていただいています。
どんな形でも、教会に足を運ばせていただけるように工夫をすることが大切と思わせていただいています。
お結界でお届けをさせていただける大切さを伝え、お結界では一言でも、み教えを聴かせていただき、聴き方受け取り方を間違うことないようにと、教えて行かねばならないと思います。
たとえアラッと思うようなお話しを聴いたとしても、受け方を間違わないようにしていく心の持ち方が大切なことと思わせていただいております。

記念祭奉迎　感話発表

濱口洋子

平成二十三年三月二十二日

◇わが家の入信◇

金光教にご縁を頂いたのは、父の仕事の関係で栗野に住んでいたときで、私が五才のときでした。
母の兄嫁山元アキさんという方に連れられて、中村の家から私が初めて栗野教会にお参りさせていただきました。
ちょうどそのとき、亡くなった兄が骨髄炎になり、鹿児島市にある広瀬病院に入院しておりました。
母が兄の看病疲れで倒れ、家の中にいろんなことが起こり、伯母が信心をされてありましたので「教会に行って神様にお願いしようか」と誘われたのが初めての参拝です。私は五才だったので伯母に連れられてお参りしました。
そのとき母は、まだご神縁を頂いていませんでした。伯母さんとお参りしていましたので、母が私に「何をお願いしているの？」聞いたそうです。
すると私が「みんなが元気になるようにお願いしている、一緒にお参りした方がいいんじゃないの」と言って母を誘ってお参りし、それから母がお参りするようになりました。それが母の入信となりました。
栗野教会に二年ほどお参りさせていただきまして、父が転勤になりまして加治木に戻ってきて加治木教会にお参りするようになりました。
母は、栗野教会にお参りしているときに、御大祭に政美親先生がおみえになってありましたので、加治木教会のことは聞いていて加治木教会にお参りするようになったと言っておりました。
加治木に夏休みに転勤になりましたが、町内に家がなかったので小浜の方に二ヶ月ほどいまして、それから岩原の方に空き家ができました

ので引っ越して行きました。岩原に引っ越してきたときには、教会はまだ向江町にありまして、そこにお参りさせていただきました。その後に教会は今の朝日町に移られました。

私は、小学校・中学校・高校までの家にいる間、加治木で過ごしまし。

当時は少年少女会を星子ミツルさんが一生けんめいおかげ頂いておられました。前田和子さんとか、福山教子さん孝子さんたちがいらっしゃるくらいでした。少年少女会があるときにはお電話をしていただくか、声をかけていただくかして参加させていただきました。

低学年の頃は少年少女会によく参加させていただいていましたが、中学・高校となっていきますとなかなか思うように足が運びませんでした。

小学校の頃は両親と一緒に、夜のご祈念にお参りしていました。しかし、眠くて眠くて畳に着いた頭が上がらないようなことでした。ただただ足を運んでお参りしていたということでした。

◇行く先ざきで教会に◇

高校を卒業してからは、神戸の兄のところに商売の手伝いに行きまして、西灘の方にいたときには六甲教会に参拝し、曽根の方に移り曽根教会に、高砂の方に移ると高砂教会にお参りさせていただきました。

向こうの方の教会は、九州のようにみ教えがありません。お話があまりありません。何となくお参りしてお願いしてお届けしてというような信心しかしていませんでした。

鹿児島に帰ってきて一年半くらいいまして、また兄のところに手伝いに行きまして何年かいましてから帰ってきて結婚させていただきました。

結婚して三年ほどして主人の転勤で東京に引っ越すことになりました。東京では練馬教会にお世話になりました。平成三年にこちらに帰ってきまして、やっと落ち着いたようなことでした。

いつも地に足が着いていない、浮き足立ったような気がしていました。

小学校・中学校の頃は、加治木の親先生は、同じお話を何回も何回もして下さってありましたので、そのようなお話は頭に残っていました。

いろんなことが起きても、信心してなければ「奇跡」とか「間一髪」という言葉で済ませてしまいますが、主人や子どもたちは「今日はすごく危なかったけど、おかげだった」と自然に会話の中に出てはくるのですが、もっと信心の奥に入るということになっていません。

教会にお参りして親先生のお話を一つでも二つでも多く聴かせていただいて育っておられる方は有難いことと思います。

私は、お話を聴かせていただく時期が学生時代の頃しかありませんでした。よその地方（兵庫県や東京）の教会にお参りしましても、あまりみ教えがないもので「九州ってスゴイな！」と思っていました。

兵庫県でも東京でも、お参りに行ってもみ教えはそんなに聴かされていませんでしたので「これで同じ金光教の教会かな」と思ったこともありましたが、加治木教会で聴かせて

いただいたみ教えだけは頭の中に残っていました。

◇信心を持っての結婚◇

結婚して鹿児島に帰ってきて、主人の母と一緒に住んで十年になります。結婚するときに、主人の家と私の方との宗教が違っていましたが、信心は持って嫁いで行きたいと思っていました。

主人はそれほど熱心ではなかったのですが、そこの家に嫁として嫁ぐわけですから、結婚のお返事をするときに「金光教の信心をしていますので結婚しても信心だけはさせて下さい」とお願いしますと、わかって下さいました。

そのため、お義母さんのお部屋には仏壇が、私たちのところには金光教お社（やしろ）が、同じ家の中に二つお祀りしてあります。

そのようなことですが、最初にお話していましたので、教会にお参りすることもいろんな行事も、抵抗がありません。

ですから「今日はお参りに行ってきます」と言っても「ハーイ！」と文句も言われないで、気が引けないで出させていただいていますので、有難いと思わせていただいております。

「濱口の家の嫁だから今やっているものをやってもらわないといけない」ということもありません。

しかし、主人に病気で亡くなりましたが兄がいまして、亡くなるまで熱心に信心していた仏教でお祀りして欲しいといいということが義母にははっきりわかっていましたので、義母は、弟嫁には家の仏様のことをはっきりと言われました。

「洋子さんはちゃんと神様の信心を持っているからお願いはできないけど、あなたはうちに嫁に来た以上仏様をみてもらわないといけない」と弟嫁に言われました。

主人の方が次男で兄なので、昔からの順序がありますので、お義母さんのお世話もして行かなければなりませんが、仏様の信心の面は了承して下さって弟嫁に言って下さってありました。

主人の義母は今年で九十才になられ、弟の方では義兄の仏様を受け継ぐという気はないのですが、義母はぜんぜん不安には思ってありませんし、私たちに押し付けもされませんで、「信心はめいめい」と教えられているようになっており、有難く教会にお参りさせていただいて、おかげ頂いていると思わせていただいています。

目に見えないおかげとか目に見えるおかげとか、たくさんありすぎて、今までのおかげ話をこれといって取り上げにくいようなことです。

◇母の信心のおかげで◇

そのようにおかげを蒙らせていただいてきたのは、里の母の方が信心は地味ですけど、ずっと深い信心がありますので、母の信心ができていたおかげなのかもしれません。

里の亡くなった兄が、長い間骨髄炎を患っていましたので、いつも大井病院で手術をさせてもらっていまして、検査や手術をする前は必ず親先生にお届けさせていただいていました。

その中でも、手術となっていた日

に、骨が傷口から自然に出てきて手術しなくてよかったということがありました。

また、病気の最初に骨髄炎ということがわからなかったのに、たまたまですが、父が市立病院に連れて行って診てもらうと「悪いところはない」と言われ、そのあと、広瀬病院が建設省の関わりの病院だったので、ふと思いついて訪ねて診てもらいました。

すると、注射針を入れられると、化膿している膿が飛び出して、すぐ骨髄炎ということがわかり、傷口を開けられて腐った骨を取り出されたということがありました。

そういうことがあって、このお道にご縁を頂いて行くことになったと思います。

その後、毎年毎年、何回も手術を繰り返して、その中でも大きな手術をしなくて済んだとか、ほんとうはビッコになるか、足を切る（切断）ことになっているところを、快復させていただき普通に歩けるようにおかげを頂きました。

そういうところが母の信心の本（もと）になっているので、一生けんめいになれていたのだと思います。

私が学生の頃、母は朝五時半の御祈念に、岩原から（二㎞ほど）歩いてお参りしていました。冬場は五時半というと真っ暗ですから、寒さをしのぐために日本タオルをホッかぶりしてお参りしていると、網掛橋の交番のところで何回か警察に止められたそうです。

当時は今のように街灯はなく真っ暗で、不審者と思われたらしいので「教会にお参りしています」と言っていたそうです。

そのようにして朝参りをして、親先生のお話を聴いて帰っていました。

父は建設省に勤めていまして、七時過ぎ頃に食事を頂いて出勤していましたので、母が朝参りをしている頃は父の機嫌が悪かったそうです。

父はすごく厳格な人でしたので、夕方五時に仕事が終わると、五時二十分には家に帰り着くということでしたので、出勤する時もきちんとした時刻に家を出て行かなければ気が済まなかったので、「遅い！」と母はよく怒られていました。

月次祭（月例祭）などもお話が長くなると、父が帰りよりも遅くなることがあり、父から「遅い」言われていました。

そういうところを通ってきましたが、父も定年退職してからは自転車でけっこうお参りさせていただくようになりました。

十年ほど前ですが、朝お参りして教会にいるときに、お広前で具合が悪くなったことがありました。

そのときも、教会に着いてから体調を崩したようなことで、お参りの途中でしたら自転車にも乗っていますし、こけて頭を打つよなことにでもなっていたら、誰も気づかないこともありますし、大変なことになっていたところをおかげ頂いたと思います。

私が桜ヶ丘にいた頃で、教会から連絡があってすぐ飛んできて、病院に運んだようなことでしたが、おかげで良くならせていただきました。

そういうことがありましたが、今

も続いているのは、母の信心があったからだと思います。
　徳がなくなれば心配も大きくなりますので、神徳を積ませてもらわないといけません。
　母は、「徳は毎日毎日使っているわけだから、毎日毎日徳積みをして行かないと、徳が切れてしまうよ」言います。
　ですから、私たちがいろんなおかげを頂いているのは、やはり母の徳積みがあったからだろうと思います。

◇信心の継承について◇

　ですが、子どもに信心が伝わらないことが、一番の問題と思います。厳格に子どもに伝えて行こうとしますと拒否されます。
　ですから、ズボラでもいいからとでもいいましょうか、お礼するときに手を洗いうがいをするようなことがなくても、自然に心から、簡単にでもいいから神様に心を向けることを継承して行ってくれたらなと思っています。
　ですから、星原さん、永原さん、孝子さんの方の、子どもさんがお参りされてあるところを見ると羨ましくて仕方ありません。
　もったいなく時間をすごしてしまって、後悔しているところもあります。
　東京にいるときには、練馬教会によく連れて行っていました。「電車を使うより近道をして自転車で行けばいい」と言って、みんなで自転車に乗って二十分か三十分くらいかけてお参りしていました。
　しかし、私の教え方が良くなかったところがあったのではないかと思うのです。
　下の子は「お母さんは、教会に行ったら静かに静かにしておくのよ！と言ってジッと座らせておいたから、それがトラウマになっている」と言うのです。
　もう少し考えて、どうにかしておけば良かったと思います。
　しかし、上の子は東京にいますが、帰ってきたときに「教会にお参りしようか」と言えば、お参りしますし、下の子は「お参りに行くよ」と言えば、行くときもあります。
　その下の子は、学生の時に毎朝上荒田教会に学校へ行く前に寄らせていただいて、バイクを置かせていただいて電車で谷山の方まで通わせていただいていましたから、急に雨が降り出すとカッパを借り、お手洗いをお世話になることもあったものですから、今でも鹿児島市内に行ったときには上荒田教会に顔を出させていただいているようです。
　どんな形にせよ信じるものや願うところがあれば、どこに行っても大丈夫ではなかろうかと思います。
　ほんとはもう少し常平生、神様に心が向かってくれれば有難いと思いますが、まだ親ができていませんので、こんどの記念祭を機に、私の勤務時間などをできるだけ神様に合わせるようにしたいと思っています。
　去年の十一月までは薬局の都合で仕事場に一人で入っていまして、仕事を替わってもらえる人が一人しかいなかったのですが、今はパートさんを二人入れていただいて、私も半日で帰れるようになりました。
　そのため、休みも一月前にお願い

して、今日もこうしてお休みを頂かせてもらいました。

やはり、考えてみるといろんなことを神様がお繰り合わせ下さって先々を良いようにして下さっていて、時期がくると「あー、やっぱり！」ということが多いです。

二番目の子は高校生のとき、登校拒否を起こして中退し、開陽高校（単位制の高校）に入らせていただいて単位を取って卒業し、専門学校に行かせていただきました。

そのときも、すごく〈何で行かないんだろう、何でこうなんだ〉とも思ったのですが、〈神様は起こってくることに無駄なことはなさらない、この子の人生の流れだろうな〉とも思っていました。今になって考えてみますと〈ほんとに無駄ではなかったな〉と思います。

開陽高校が伊敷から谷山に移り遠方になったからこそ上荒田教会に寄らせていただいて、お広前でお礼させてもらって学校に行かせていただくという道が三年ほどの間に着きましたので〈神様が道を作っていて下さってあったのだな、ほんとに無駄はないなぁ〉と思います。

何にしても、子どものことや主人のこと両親のことなどで急な困ったことが起こってきて、常に不安や心配はありますが、心配してもしようがないので〈信心させていただいて、おまかせしておれば、神様が良いようにして下さり、道ができて行くのではないかな、あまり心配しないで、信心させていただいて神様におまかせして行かなければな〉と思っております。

たくさん神様からおかげを頂いて〈あれもおかげだ、これもおかげだ〉と思うのですが、感謝させていただくだけではなくて、そこに親先生のお祈りとみ教え、神様のお働きがあったということを思わせていただいて、これから年齢は気にせず、信心は年を取ってもできると教えられていますから、少しでも地に足が着くように、信心の稽古をさせていただきたいと思います。

青年会

三月二十三日(水)

三月二十三日(水)夜八時から教会で青年会が開かれました。信心の勉強会と、おしゃべり会です。テキストは、昨年十二月二十三日に仕えられました、甘木親教会二代教会長安

武文雄大人十五年祭のパンフレットのみ教えです。その中に掲載されているのは『心神　安武文雄教話集』からの文章でした。

…人から「エレベーター信心」と言われた人がある、同じところを上がったり下がったりする信心のこと…。長年信心しておるといいましても、油断をしておりますと、こういう信心で終わってしまうかも知れません。

少し進んで、安心して油断して前に戻って、何か事があるとまた少し取り組んで、また油断して…、同じ付近を行きつ戻りつして、いっこうに前進が見られない信心のことでしょう。身につまされ、奥が深い話題だと結構時間がかかります。

四月二十八日～五月二十八日

記念祭前 信行期間

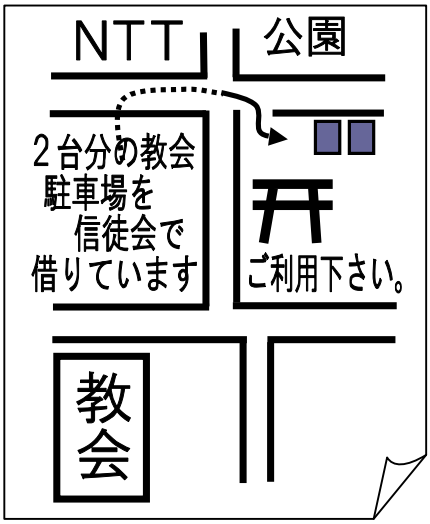
ご祈念・研修～午前五時三十分・午前十時
ご祈念のみ～午後四時・午後九時
※信心の稽古・工夫・展開に努め、真の繁盛をおかげ頂こう！

あしあと

加治木教会行事記録

3月

1(火)●報徳月例祭　10時半
3(木)（甘木親教会月参拝日）
9(水)斎掃御用　10時
10(木)●月例祭10時半
12(土)～13(日)◆典楽会
20(日)斎掃御用　10時
21(祝)●春季霊祭　10時半
22(火)●月例祭・共励会13時半
〃◆青年会　20時
26(土)～27(日)
信徒会教区委員会（南九州教会にて）
31(木)斎掃御用　10時



ご霊神様のお立日

四月

平島厳廼正明聡根彦 之霊神　（1日）昭和19年
前田重吉 之霊神　（4日）大正5年
福元 節 之霊神　（2日）昭和59年
中野 勇 之霊神　（3日）平成11年
前田シナ 之霊神　（4日）昭和20年
小坂カネチヨ 之霊神　（5日）
前田ソエ之霊神　（6日）昭和39年
松田浅右衛門 之霊神　（8日）昭和28年
安武孝子玉依姫 之霊神　（9日）昭和50年
汰木美之助 之霊神　（11日）昭和24年
瀬尾雅博 之霊神　（12日）平成3年
市薗千賀子 之霊神　（19日）平成13年
中島武彦 之霊神　（26日）昭和51年
三反 礫 之霊神　（29日）昭和48年

ご先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあっての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げましょう。
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

四月二日(土)～三日(日)

天地金乃神様　ご教話・ご祭典、三日 十三時～

御本部御大祭 参拝

出　発…二日 午前七時二十分
帰　着…三日 午後八時半頃
交通機関…団体バス（えびの乗り込み）

四月十日(日)　十時半

月例祭に併せて

勧学祭 奉仕

健康な成長と学業成就の御礼と
お願いを申し上げましょう。

四月二十五日(月)参拝　第一日二十五日　第二日二十六日

甘木親教会　（ご祭典十一時より）

天地金乃神御大祭 参拝

出発…二十五日 午前七時　帰着…同日 午後七時頃

四月二十九(祝)～五月一(日)

甘木親教会甘　〈二泊三日〉

交歓会（少年少女会）

対象～中高生（リーダー…御用）

五月二十九日(祝) 十一時

加治木教会　（前日 御用奉仕）

天地金乃神御大祭 併せて

布教六十年記念大祭 奉仕

教会行事

4月

1(金)●報徳月例祭　10時半
2(土)◆御本部参拝 出発
3(日)◆御本部天地金乃神大祭
9(土) 斎掃御用　10時
10(日)●生神金光大神様月例祭　10時半
〃 併せて◆勧学祭
16(土)～17(日)
◆甘木親教会 青年の集い
14(木)(連)執行部会 10時半 上荒田教会
21(木) 斎掃御用　10時
22(金)●月例祭・共励会　13時半
〃 ◆青年会 20時
23(土) 大口教会御大祭
24(日) 免田教会御大祭(教話御用)
25(月) 甘木親教会 御大祭
26(火) 甘木親教会 御大祭
29(祝)～5月1(日)〈2泊3日〉
甘木親教会甘 交歓会 少年少女会)

※少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により、日程を変更すること、思い立って開くことがあります。随時連絡しますのでお気をつけ下さい。

5月

1(日)●報徳月例祭　10時半
3(祝) 東郷教会(前教会長)五年祭
〃 西鹿児島教会御大祭 12時
5(祝) 出水教会布教85年記念祭
〃 斎掃御用　10時
10(火)●生神金光大神様月例祭　10時半
14(土) 多良木教会御大祭　11時
15(日) 鹿児島教会御大祭　11時
21(土) 斎掃御用　10時
22(日)●月例祭・共励会　13時半
〃 青年会 20時
28(土) 御用奉仕
29(日) 加治木教会(布教六十年)記念大祭
31(火) 斎掃御用　10時

《御大祭》…四月
四月二十三日(土) 大口教会
四月二十四日(日) 免田教会
四月二十五日(月) 甘木親教会